

耐震診断結果の見方

- ① 「要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断の結果」の「耐震診断の方法」を確認し、「附表」の中から同じ「耐震診断の方法」の欄を探します。
- ② 「評価の結果」の数値が、「附表」の「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性」のどの部分に該当するかを確認します。
- ③ 該当する欄の上部に「安全性」の評価が記載されています。
- ④ 建築物によっては、結果の算出に使用した数値が異なっていたり、建物の場所によって評価方法が異なっていたりします。備考欄に補足説明がありますので、ご確認ください。

要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断の結果

■小学校、中学校、中等教育学校の前期過程若しくは特別支援学校

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断方法の名称	構造耐力上必要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	時期	
〇〇	〇〇小学校	長崎県〇〇市〇〇町〇〇番地	小学校	① D (一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」(2001年版)	② $I_s/I_{so}=1.25$ $C_{T1} \cdot S_D=0.45$	-	-	④ Es=0.7として診断 耐震改修済み
	管理・普通教室棟			A (一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(2011年版)	$I_s=0.75$ $\alpha=1.2$	-	-	Es=0.7として診断 耐震改修済み
	特別教室棟							

同じ方法の「耐震診断の方法」を探します。

「評価の結果」の数値が、附表のどの部分に当てはまるかを確認します。

この部分が「安全性」の評価*です。

耐震診断方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	I 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	II 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	III 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
A (一財)日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」(1996年版、2011年版)	$I_s < 0.3$ 又は $\alpha < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq \alpha$
B (一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第1次診断法」により想定する地震動に対して所要の耐震性を確保していることを確認する方法	-	-	$1.0 \leq I_s/I_{so}$
C (一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(1990年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{T1} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \leq C_{T1} \cdot S_D \leq 1.25$ $1.25 < C_{T1} \cdot S_D$
D (一財)日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2001年版)	$I_s/I_{so} < 0.5$ 又は $C_{T1} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{T1} \cdot S_D$

* 安全性の評価IIIは、現行耐震基準に相当するもので、これを下回ると評価II「危険性がある」、評価I「危険性が高い」とされますが、これらの評価区分により、大規模な地震に対する建築物の崩壊・大破が確定的となるものではなく、評価値が小さくなるに従って、被害を受ける可能性が高くなるものとされています。

<用語の説明>

「 I_s 」: 構造体の耐震性能を表す指標 (この値が大きいほど耐震性能が高い)。

建物が保有する「強度」と「粘り強さ」、「建物形状のバランス」、「経年劣化」をそれぞれ評価し、それらを総合的に算定する。

「 I_{so} 」: I_s の判定基準となる目標値。 $I_{so} = E_s \cdot Z \cdot (R_t) \cdot G \cdot U$ (一般的に第2次診断法の場合 $E_s=0.6$)

「 q 」、「 $C_{T1} (C_T) \cdot S_D$ 」: 建物に一定の「強度 (硬さ)」を確保するための指標 (この値が大きいほど耐震性能が高い)。

「 $Z \cdot G \cdot U (Z \cdot R_t \cdot G \cdot U)$ 」: Z 地域特性 (地震活動)、 R_t 建築物の震動特性、 G 地盤特性 (地形等)、 U 建築物の用途による重要度等から目標値を補正するための指標。